

教科	科目	授業時数	対象学年
国語	国語	5	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	<p>本文全体の構造を踏まえ、作者の主張をとらえることができる。</p> <p>本文全体の展開をつかみ、自然描写や人物の言動などから心情をとらえることができる。</p> <p>自分の考えを正確に伝えることができる。</p> <p>古典文法の用言を体系的に整理したうえで、助動詞・助詞を理解し、古文を正確に読解する力をみにつける。</p> <p>漢文の基礎を身につけ、書き下し文を正しくかけるようにする。</p>
目標を達成するための留意点	<p>授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身に着ける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。</p> <p>家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧取り組み、復習をする習慣を身に着ける</p>
使用教科書	<p>『国語3』（光村図書） 『新しい書写一・二・三年』（東京書籍）</p> <p>『精選 国語総合』（筑摩書房）</p>
使用副教材	<p>『中学実力練成テキスト 国語3年』（文理） 『常用漢字クリア』（尚文出版）</p> <p>『はじめての評論文20選』（明治書院） 『新国語便覧』（第一学習社）</p> <p>『やさしく詳しい古典文法』（尚文出版）</p> <p>『明説漢文』（尚文出版）</p> <p>『力をつける古文』（数研出版）</p>
評価基準	<p>小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。</p>
学習内容	<p>原語知識 ・ 常用漢字・同音異字・同音異義語の習得</p> <p>・ 抽象概念語句に馴れる</p> <p>説明文・論説文</p> <p>・ 文章構成をとらえ、意味段落ごとの要約ができる。</p> <p>・ 要約した内容から、要旨をまとめることができる。</p> <p>詩歌・文学的文章</p> <p>・ 登場人物の人物像をとらえることができる。</p> <p>・ 自然描写や場面展開に気付き、その意味を考えることができる。</p> <p>・ 登場人物相互の関係をとらえ、登場人物の心情をとらえる。</p> <p>・ 文章を読んだ感想や思いを、文章で正確に伝えることができる。</p> <p>・ 中世から中古の説話文・物語文・和歌の読解</p> <p>・ 文法の習得・活用して文章を読解する。</p> <p>・ 古今異義語の理解</p> <p>・ 音読・暗証</p> <p>○説話文などを導入教材として、古文の文章を本格的に読解していく。その上で、古今異義語の理解を深め、語句の知識を増やす。</p> <p>また、古文の基礎となるのは音読・暗唱であるという認識を持ち、リズム感をもち文章を読解</p>

教科	科目	単位数	対象学年
社会	公民	3	3

1. 学習の到達目標等

到達目標	広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、倭が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
目標を達成するための留意点	知識に偏りすぎた指導にならないように、基本的な事項・事柄を厳選して指導内容を構成していく。生徒の主体的な学習を促し、課題を解決する能力を一層培うため、各分野において、適切な課題を設けて行う学習の充実を図る。社会的事象の特色や事象間の関連を説明する学習を通して、言語活動の充実を図る。資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに作業的、体験的な学習の充実を図る。その際、情報モラルの指導にも配慮する。教育基本法第14条及び第15条の規定に基づき、政治及び宗教に関する教育を行う。
使用教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい社会 歴史（東京書籍） ・新しい社会 公民（東京書籍）
使用副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・つながる歴史（浜島書店） ・基礎をきづく歴史③ 東京書籍版（浜島書店） ・新しい公民（浜島書店） ・基礎をきづく公民 東京書籍版（浜島書店）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度 それぞれの項目に関して、授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	<p>【 歴 史 】</p> <p>第7章 現代の日本と世界</p> <p>1節 戦後日本の発展と国際社会 2節 新たな時代の日本と世界</p> <p>【 公 民 】</p> <p>第1章 現代社会と私たちの生活</p> <p>1節 現代社会の特色と私たち 2節 私たちの生活と文化</p> <p>3節 現代社会の見方や考え方</p> <p>第2章 個人の尊重と日本国憲法</p> <p>1節 人権と日本国憲法 2節 人権と共生社会 3節 これからの人権保障</p> <p>第3章 現代の民主政治と社会</p> <p>1節 現代の民主政治 2節 国の政治の仕組み 3節 地方自治と私たち</p> <p>第4章 私たちの暮らしと経済</p> <p>1節 消費生活と市場経済 2節 生産と労働 3節 価格の働きと金融</p> <p>4節 政府の役割と国民の福祉 5節 これからの経済と社会</p> <p>第5章 地球社会と私たち</p> <p>1節 国際社会の仕組み 2節 さまざまな国際問題</p> <p>3節 これからの地球社会と日本</p> <p>終 章 より良い社会を目指して</p>

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学①+数学 I	3(1+2)	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・下記学習内容を理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に、根号を用いた数の四則計算、整式の展開と因数分解、2次方程式の解法などの計算力を高めるとともに、2次関数 $y = ax^2$ について発展的に学ぶことにより、関数概念の理解をさらに深めること。 ・学力推移テストで偏差値 55 以上が取れる習熟度をを目指す。
目標達成のための留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校数学の基礎となる数式計算・処理の技能の習熟を徹底すること。 ・論理力、数学的な表現力の育成を目指すこと。
教科書	これからの数学3(数研出版), 数学 I(数研出版)
副教材	体系数学 II 代数編, 体系数学問題集 II 代数編(数研出版) 4STEP 数学 I +A, 完成ノート(数研出版)
評価方法	定期考査, 小テスト, 提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また, 課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し, 総合的に評価する。
授業内容	<p>[数学①]</p> <p>関数 $y=ax^2$ の利用 関数 $y = ax^2$ のグラフの特徴や関数値の変化(最大値、最小値、変化の割合)などの関数の性質を理解する。 発展: 式の計算 数量関係を文字式で表したり, とらえたりできるようにし, 目的に応じて変形することなどを学ぶ。</p> <p>標本調査 母集団から標本を取り出し, その傾向を調べることで, 母集団の傾向を読み取ることができるようにする。</p> <p>[数学 I]</p> <p>第1章 数と式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数と式の基本的な計算を学び, 見通しをもって式を扱えるようにする。 ・数を実数まで拡張し, 数の体系について理解を深める。また, 1 次不等式の解法を学び, 解の意味について理解を深める。 ・論理的な思考力を伸ばし, それらを命題などの考察に生かす。背理法を用いた証明について学ぶ。 <p>第2章 集合と命題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学での「集合」の考え方について理解し, 式で表現できるようにする。 ・「命題」「条件」とは何かを理解し, 真偽について論理的に考えることができるようにする。 ・背理法について理解し, 活用できるようにする。

教科	科目	単位数	対象学年
理科	理科1分野	2	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	物理への関心意欲を高め、基本事項をよく理解し、物理的なものの見方や考え方を身に付ける。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく、能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「考える物理基礎」(啓林館)
使用副教材	「センサー物理基礎」(啓林館)
評価基準	・定期試験 ・課題の提出 ・実験レポート ・授業への意欲により総合的に判断する。
学習内容	<p>物体の運動とエネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速度 ・加速度 ・力 ・運動の法則 ・様々な力と運動

2. 指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
運動とエネルギー	運動の表し方	■		1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査	■	2学期期末考査					学年末考査
	運動の法則		■		■		■		■	■								
	仕事と力学的エネルギー											■		■	■	■		■

教科	科目	単位数	対象学年
理科	理科2分野	2	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	1. 化学が物質を対象とする学問であることや、人間生活に果たしている役割を理解する。 2. 原子の構造と電子配置を理解する。 3. 物質量を学び、化学反応の量的関係を理解する。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく、能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「改訂 化学基礎」(東京書籍)
使用副教材	「セミナー化学基礎」(第一学習社) 「フォトサイエンス 化学図録」(数研出版)
評価基準	*主体的に学習に取り組む態度 *思考・判断・表現 *知識・技能 の3つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	序 編 科学と人間生活 第1編 1章：物質の探求 2章：原子の構造と元素の周期表 3章：化学結合 第2編；物質の変化 1章：物質量と化学反応式

2. 指導計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
化学と人間生活	化学とは何か			1	1				2	2			学 年 末 考 査
	物質の成分と構成元素			1	1				2	2			
物質の構成	原子の構造と元素の周期表												
	化学結合												
物質の変化	物質量と化学反応式			中	中								
	酸と塩基			間	間								
	酸化還元反応			考	考								
				査	査				査	査			

